薬草の産地復活を目指して

要約

南部農林管内の市町村では、かつて山間地において薬用作物の生産が盛んに行われていたが、現在は衰退してきている。そこで、作業性の良い遊休水田等を利用した新たな産地づくりを目指して、平成２４年度から試作を行っている。今年度については、シャクヤク、ミシマサイコの試作支援を行った。

現状(背景)と課題
- 薬用作物の衰退
  作付面積　３４ａ（Ｈ２４）
  ＊ミシマサイコ、シャクヤク

目標
- 新たな産地づくり
  作付面積　　９０ａ
  ＊ミシマサイコ、シャクヤク

活動内容
- 指導対象：試作参加者　3名
- 試作ほ場巡回　4カ所　→　生育状況等の確認、対策提案と指導

成果

【シャクヤク】
- 下市町で農業生産法人が遊休農地対策も念頭においた試作を開始した。
- 平成２５年の秋に定植した圃場については、順調に生育し、定植２年目になる平成２７年の３月には、株あたりの発芽数が倍以上に増加してきている。
- 平成２６年の秋には、さらに作付面積を１ｈa拡大し、合計が２．６ｈaとなっている。

【ミシマサイコ】
- 大淀町で１組織（集落の生産組合）、東吉野村で２農業経営者（従来からトウキを生産している方）が試作を開始した。
- 大淀町ではミシマサイコの発芽が全く見られず、失敗に終わった。
- 東吉野村においては、平成２６年春に育苗を開始し、８月下旬に定植した圃場があり、秋植えになった分やや株張りは悪いが、無事越冬には成功している。

生育状況（シャクヤク：Ｈ２６年７月）

生育状況（ミシマサイコ：Ｈ２７年３月）

南部農林振興事務所農業普及課
担当：産地づくり係　堤、担い手係　上田
農業改良普及事業、薬用作物生産振興促進事業

普及活動のポイント

- 試作１年目であることから、作付ほ場全てを巡回指導の対象とし、こまめな指導を行った。
- 実際にほ場において、生育状況や害虫の発生状況の確認方法を指導することで、生産者自らの力で、必要な栽培管理が何かを判断できるように誘導した。
- シャクヤク、ミシマサイコについては、南部農林振興事務所としても栽培指導経験が乏しい品目であったことから、他県を含めた先進地の事例収集を積極的に行うとともに、生産者との検討を重ねながらともに試作を行っている。

対象の変化

- 現状試作に成功している下市町のシャクヤクと東吉野村のミシマサイコについては、生産者も意欲的であり、H２７年度は更なる面積拡大を予定している。
- 特に、下市町のシャクヤクの事例においては、農業生産法人の担当者が自ら近隣での情報収集（今はなくなっているが、昭和５０年代くらいまでは下市町内等でシャクヤクが栽培されていた）に当たるなど積極的な動きが見られる。

これからの活動ビジョン

- 試作支援の継続　＊定植後収穫まで、ミシマサイコについては２年間、シャクヤクに関しては通常４年間かかる。
- ミシマサイコについては自家採種による育苗が可能かを検討する。シャクヤクに関しては、花の利用が可能かを検討する。

活動体制

対象：試作者　３名

↑ ほ場巡回、栽培管理指導

支援チーム　～情報共有、共同活動～

町村役場農業担当課
＊苗、肥料等への助成

南部農林振興事務所
＊管理状況確認、問題点の把握
対策案の提示、指導

民間薬種問屋
＊種苗の提供

農業研究開発センター（技術支援課・薬草科）
＊現地圃場での生産技術の指導

用語解説

〇ミシマサイコ

漢方薬の原料となる薬用作物の一種。根が薬用部分になる。生薬名は柴胡（サイコ）。慢性肝炎や慢性腎炎に効果があるとされている。全国的には高知県や愛媛県で多く栽培されている。奈良県内では十津川村に作付がある。